県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

# 宮島学センター通信

第7号
平成28年3月15日発行

Prefectural University of Hiroshima Miyajimagaku Center

県立広島大学宮島学センター／
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号　TEL.082-251-9550　E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp

## 企画展示
## 知られざる宮島の魅力
## ー大元神社と大元公園ー

廿日市市宮島歴史民俗資料館と共同して、同館で平成 27 年 11 月 10 日（火）から 12 月 13 日（日）まで、企画展示「知られざる宮島の魅力－大元神社と大元公園－」を開催しました。

この企画展示は、まだあまり知られていない宮島の魅力を発掘し、情報発信するための共同作業です。今回は大元神社と大元公園を取り上げ、その歴史的・文化的価値を伝える関係資料を展示しました。

大元は宮島の市街地の西端で、大元神社を中心とした大元川の川裾の開けた地域です。モミの大木を海岸線から見ることができるなど、自然豊かな地域で、明治時代以降は風情のある旅館やホテルなどが建ち並び、日本人だけではなく外国人観光客にも愛されました。ユネスコ・世界文化遺産「厳島神社」（1996 年）の登録範囲の西端に位置します。

企画展示では、江戸時代から現代までの資料約 40 点を展示し、キャプション（解説文）を宮島学センターが作成しました。期間中に 2002 名の方にご来場いただきました。

### 関連事業

11 月 15 日（日）には、企画展示の内容を踏まえて、大元神社と大元公園を散策するイベント「秋の宮島散策～大元神社と大元公園～」を実施しました。当日は晴天にめぐまれ、舩附洋子さん（宮島歴史民俗資料館）と秋山伸隆センター長が見所を案内しました。

### 公開講座

11 月 18 日（水）には、企画展示の関連事業として平成 27 年度県立広島大学宮島学センター公開講座第 2 回「大元神社の祭神と宮島の町人－忘れられた町人の祈り －」を実施しました。講師は松井輝昭県立広島大学名誉教授でした。

講座の後半は、会場を宮島歴史民俗資料館に移して、写真展の観覧とギャラリートークをおこないました。ギャラリートークの解説は、舩附洋子さん、秋山センター長、大知徳子助教がおこないました。

### 学生向けのフィールドワーク

12 月 6 日（日）には、学生が資料館を訪れ、企画展示を観覧しました。秋山センター長と大知助教が資料の見所などを解説しました。

なお、この日、学生たちは資料館を訪れる前に、弘治元年（1555）の厳島合戦において毛利軍がおこなったと伝わる「博奕尾越え」と同じルートをたどりました。秋山センター長の案内で、まず宮島の要害山（宮ノ城跡）を訪れ、その後、毛利軍が最初に上陸した包ヶ浦まで歩き、博奕尾を越えて紅葉谷まで下りました。

## 平成27年度「地域文化学（宮島学）」

平成 27 年度の「地域文化学（宮島学）」は、日本史、日本文化史、日本文学、日本芸能史、中国文学などを専門とする教員が担当しました。国際文化学科２年生を中心に 38 名の学生が受講しました。

７月４日には、宮島を散策するフィールドワークを実施しました。

また、７月 13 日には、特別講師として平山真悠さん（宮島・大願寺）をお迎えし、特別講義をしていただきました。日本におけるアジール（世俗の世界から遮断された不可侵の聖なる場所、平和領域）の事例を紹介しながら、宮島・大願寺が果たしてきた役割について語っていただきました。また、学生に対して、現在の観光地としての宮島についてどのように考えるか、という問題提起もしていただきました。

平山さんの授業の様子

| 日程 | テーマ | 講　師 |
|---|---|---|
| 4／13 | 厳島神社と宮島 | 大知　徳子 |
| 4／20 | 宮島を訪れた人々 | 大知　徳子 |
| 4／27 | 平家納経を眺めてみよう | 西本　寮子 |
| 5／11 | 清盛時代の厳島舞楽 | 樹下　文隆 |
| 5／18 | 清盛時代の厳島舞楽 | 樹下　文隆 |
| 5／25 | 宮島にもたらされた陶磁器 | 鈴木　康之 |
| 6／ 1 | 中世の厳島と能楽 | 樹下　文隆 |
| 6／ 8 | 宮島と廿日市 | 秋山　伸隆 |
| 6／15 | 厳島神社と石見銀山 | 秋山　伸隆 |
| 6／22 | 厳島の美に魅せられた人々<br>―「厳島八景」を中心に― | 柳川　順子 |
| 6／29 | 近世･近代の厳島 | 大知　徳子 |
| 7／ 6 | 宮島における戦争と平和 | 秋山　伸隆 |
| 7／13 | アジールとして宮島が歩んだ歴史を考える<br>～宮島はアジールであったか???～ | 平山　真悠さん<br>（宮島･大願寺） |
| 7／ 4 | 宮島でのフィールドワーク | |

### フィールドワーク

７月４日の午前中は、受講者 35 名が町屋通り、山辺古径などを通って千畳閣・五重塔・厳島神社・大願寺を巡るフィールドワークを実施しました。

午後からは、５つのグループに分かれた学生たちが、次のレポート研究のテーマにそって現地での調査をおこないました。

1　大元神社周辺の石造物の調査
2　宮島の豊国神社（千畳閣）に掲げられている奉納額の調査
3　経尾経塚の調査
4　宮島の杓子に関する調査
5　宮島の民俗行事「たのもさん」に関する聞き取り調査

## 図書館企画展示「厳島絵馬鑑（かがみ）　色褪（あ）せぬ記憶」

平成 27 年 8 月 17 日～28 日まで、広島キャンパス図書館において、企画展示「厳島絵馬鑑　色褪（あ）せぬ記憶」を開催しました。

この展示は、学芸員養成課程の授業科目「博物館展示論」の受講生を中心に、経営情報学部　経営学科 4 年生　廣永千弥さん、人間文化学部　国際文化学科 3 年生　菊池あすかさん、熊本光咲さん、田口春野さん、橋岡里奈さん、平松佳奈さん、森下真由香さんが企画・運営をおこないました。展示期間中に、学生による展示説明会も実施し、延べ 200 名の方が来場されました。

展示作業の様子

ギャラリートークの様子

嚴島神社には、長い歴史の中で、数百を超える絵画作品が奉納されてきました。特に国指定重要文化財・長沢芦雪「絹本著色山姥図」や横山大観「屈原」などは有名です。

江戸時代後期に成立した『嚴島絵馬鑑』には、嚴島神社にかけられていた絵馬を模写した縮図と、絵馬の寸法・材質、絵馬が廻廊のどこにかけられていたかなどが記されています。

この企画展示では、宮島学センターが所蔵する千歳園藤彦『嚴島絵馬鑑』〈天保３年（1832）〉を用いて、嚴島神社の絵馬を紹介しました。

## 平成27年度公開講座・講演会

### 宮島学センター公開講座

（廿日市市教育委員会・廿日市市生涯学習推進本部と共催）

第１回
４月 22 日「毛利元就の厳島信仰」
講師：秋山伸隆
会場：はつかいち文化ホールさくらぴあ
受講者：161 名

第２回
11 月 18 日「大元神社の祭神と宮島の町人－ 忘れられた町人の祈り －」
講師：松井輝昭名誉教授
会場：国民宿舎みやじま杜の宿
受講者数：72 名

第３回
平成 28 年２月 24 日「『厳島絵馬鑑』を読む」
会場：国民宿舎みやじま杜の宿
講師：大知徳子
受講者数：55 名

### 宮島学センター公開講演会

（岩国市教育委員会と共催）

平成 27 年９月 12 日「厳島合戦と弘中隆兼」
講師：秋山伸隆
会場：サンライフ岩国
受講者数：79 名

## 宮島観光ボランティアガイド講座（英語）

学生が宮島で外国人観光客に対するボランティアガイド（英語）をおこないました。

宮島学センターでは、毎年 10 月から 12 月にかけて、学生を対象にした「宮島観光ボランティアガイド講座」を開講しています。

学生たちは、講座で身につけた知識とテクニックを使って、宮島を訪れた外国人観光客に対するボランティアガイド（英語）をおこないます。

ガイド実践に先立って、宮島では、堀益芳子先生のご指導のもと、ガイドの勉強会をおこないました。教室でも、スクリーンに映像を投影して練習を重ねました。

## ガイド当日の様子

今年度も、平成 27 年 11 月 22 日（日）と 29 日（日）に実施し、アメリカ、イギリス、インド、オーストラリア、オランダ、ニュージーランドから来日した観光客を、嚴島神社、大願寺、豊国神社（千畳閣）などへ案内しました。

10 時に宮島口 JR 桟橋に集合した後、4〜5 人のグループに分かれ、グループごとに外国人観光客に声をかけてガイドを申し出ました。ガイドに参加してくださる方が見つかると、フェリーに同乗して宮島へご案内しました。

午前中のガイドは、宮島桟橋に到着後、海岸通りを経て、石鳥居・狛犬・石灯籠・大鳥居の前を通って嚴島神社に参拝します。神社の出口付近で解散するまでの約 1 時間半のコースでした。午後は、石鳥居前で再び外国人観光客に声をかけ、ガイドを申し出ます。石鳥居から嚴島神社まで約 1 時間でご案内しました。

石鳥居

手水の方法

高舞台

## 参加した学生の感想

1 年生の時に参加してから 3 年の月日が流れ、今回の英語ガイドで自分の成長を感じることができました。後輩だったころの自分が憧れた先輩たちの姿に、少しは近づけたのではないか…と思います。ただ、完全に理解することができなかった質問があり、あいまいな答えを返したものがいくつかありました。その部分は、自分の力不足（リスニング力が未熟）でした。もっと経験を積んで、スキルアップしたいです！

そして、卒業したあとも、宮島・広島・日本についての知見を広めていきたいと思います。後輩の皆さんにも、自分の住んでいる広島の魅力・宮島の魅力を海外の方を含めた多くの観光客の方々に紹介していただきたいです。自分から発信することで、相手から多くの事を学ぶことができます。ぜひ、宮島ガイドに参加してみてください。

（H. C）

実践で本当に勉強になりました。留学生の私にとって、英語の勉強はもちろん、でもむしろそういうチームワークで友達を一緒にやったり悩んだり、支え合ったり楽しんだりするのが一番の思い出として大事にします。　（中国からの留学生）

## 全国厳島神社参詣記⑦

### 厳島神社

所在地：広島県三次市十日市中4丁目7−11

通称弁天さん。下中邦彦編『広島県の地名　日本歴史地名大系　35』（平凡社、1982 年）には、昭和 51 年（1976）馬洗川護岸工事のため十日市町上新町に移ったが、近世には岩神渡のあったところ、馬洗川左岸に突出する巨大な岩盤の上に鎮座していたとあります。境内には、昭和 51 年 6 月の「嚴島神社遷座記念碑」がありました。

文政 8 年（1825）『芸藩通志』には「勧請のはじめ詳ならず」と記してあります。

馬荒川の方向には、宮島の嚴島神社同様に朱塗りの両部鳥居が建っています。　（大知　徳子）

## 研究余禄⑦

# 千畳閣の金箔瓦

宮島の塔之岡に建つ豊国神社本殿（重要文化財）は、その壮大な規模から俗に千畳閣と呼ばれています。現在、千畳閣の屋根を見上げると金箔で飾られた瓦を望むことができますが、これは昭和60 年（1985）から平成元年（1989）にかけて実施された修理工事によって甦った姿です。

そもそも、屋根に金箔を押した瓦を葺くようになるのは、織田信長が天正 4（1567）年に築城を開始した安土城（滋賀県近江八幡市）が最初で、その後、豊臣秀吉へと引き継がれていきます。信長の時代に金箔瓦を使っていたのは信長とその子息の城館に限られていましたが、秀吉の時代になると、秀吉の城館みならず秀吉と関係の深い有力大名の城館や寺社なども金箔瓦で飾られるようになります。

千畳閣は、天正 15 年（1587）に秀吉の命により大経堂として建立が開始されたものですが、建築途中の慶長 3 年（1598）に秀吉が死去したため、未完のまま工事が中断されたと伝えられています。鬼瓦に残された銘文からは、播磨国・英賀（あが）（兵庫県姫路市）の瓦工によって製作されたことが確認でき、これは秀吉から提供された技術者集団であったと考えられます。壮大な建物を金箔瓦で荘厳にすることにより、瀬戸内海を往来する人々に豊臣政権の威光を示威する目的があったようです。

千畳閣にかつて金箔瓦が葺かれていたことは、明治維新以降は不明確になっていたようですが、大正時代の修理の際に金箔の痕跡が確認されたため、昭和 60 年からの修理工事では金箔を押す修理が行われました。金箔の接着剤には朱漆が使われており、これは金箔を美しく輝かせる効果があります。近年の各地の城館遺跡の発掘調査によっても、秀吉の時代の金箔瓦の下地に朱漆が確認されています。

漆そのものは非常に強固な物質ですが、紫外線に弱いという弱点があります。そのため修理工事から二十年以上を経過した現在では、金箔や漆がところどころ剥がれてきています。金箔瓦を復元する際には、その華麗さは千畳閣には似つかわしくないのではという意見もあったようですが、時間とともにすっかり落ち着き、宮島の景観に溶け込んでいるように思います。　（鈴木康之）

天正17年（1589）銘のある北西隅の鬼瓦（写真撮影は新谷孝一氏。）

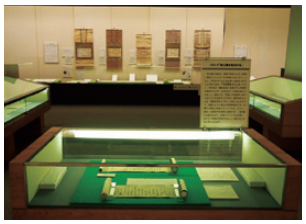
# 企画展示「県立広島大学の文化財 ー毛利氏・宮島・地域のたからー」

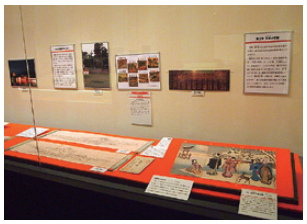
平成 28 年 2 月 19 日から 3 月 21 日まで、みよし風土記の丘ミュージアム（広島県立歴史民俗資料館）で、平成 27 年度新春の展示会「県立広島大学の文化財－毛利氏・宮島・地域のたから－」を開催し、1,617 名が来場されました。

本学は、様々な古文書、絵画資料などの文化財を所蔵しています。これらは大学における教育・研究の一環として収集したもので、教員・学生の研究や学びに活用しています。

この展示会では、日頃は学外の皆様にご覧いただく機会の少ない本学所蔵の文化財の中から 70 点を選び、展示・公開しました。

第 1 章では毛利元就やその息子、隆元、吉川元春、孫の輝元の書状など、第 2 章では、宮島の絵図や写真帳など、第 3 章では地域のたからとして大切に保管され、当時の世相や人々の教養の高さを伝える古典籍などを展示しました。





この企画展示の準備にあたっては、学芸員養成課程で学ぶ国際文化学科の 2〜4 年生が参加し、広島県立歴史民俗資料館の学芸員による事前の資料調査、資料の調書作成の様子や、美術品輸送専門家による梱包・開梱作業、展示作業の様子を見学した。学生にとっては、貴重な機会となりました。

また、企画展示室の前に設けられた県立広島大学の紹介コーナーと、展示室入口の看板は、学芸員養成課程で学ぶ国際文化学科の学生 11 名が展示しました。

展示作業の様子

## 受託研究事業

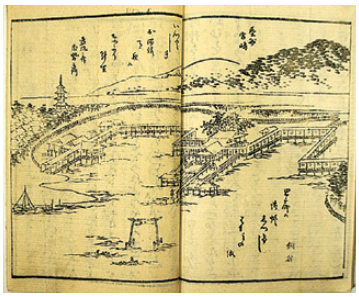
平成 27 年 10 月 1 日〜平成 28 年 9 月 30 日
企業名：株式会社広電宮島ガーデン
研究テーマ：「続膝栗毛　宮嶋参詣」の研究

十返舎一九の「東海道中膝栗毛」はベストセラーとなり、続編として「続膝栗毛」が執筆されました。弥次さん喜多さんが金比羅宮や宮島を訪れる珍道中は、本編に劣らず読者を魅了します。

しかしながら、あまりにも有名な「東海道中膝栗毛」と対照的に、これらの続編はほとんど一般には知られていません。

そこで、広電宮島ガーデン設立 50 年記念事業の一環として、このたび、「続膝栗毛　宮嶋参詣」の原本に振り仮名や注解をつけて、より多くの読者に楽しんでいただける『宮参参詣　膝栗毛』を出版することになりました。

宮島学センターでは、受託研究として、『宮参参詣膝栗毛』の本文と注解の作成をおこないました。



十返舎一九「続膝栗毛」挿絵

## 編集後記

宮島学センター通信第7号をお届けします。今年度は広島県立歴史民俗資料館で本学が所蔵する宮島関係の資料を展示していただきました。また、受託研究事業において『宮島参詣　膝栗毛』の原稿を作成する機会をいただきました。これらの事業には、学生が積極的に参加することとなり、宮島学の広がりを感じました。関係の皆様に厚くお礼申し上げます。（O）


### 編集・発行

**宮島学センター通信　第7号**
平成28年3月15日発行

**県立広島大学宮島学センター**



〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
TEL.082-251-9550
E-mail:miyajima@pu-hiroshima.ac.jp
ホームページ:
http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/miyajima/